

【ねがいましては】

平成13年4月9日

第133号

KYOWA SCHOOL

「助けあうこと」

この春休み、この教室では活気に満ちた光景が見られました。年上が年下を面倒見る。皆きつとそうしたいのだなと思いました。膝の上にまで乗せてかわいがっている新中学一年生、「わかる?」「わかる?」と言って心配そうに顔をのぞきこむ子。そのすべてが生き生きとしていて、真剣なのです。

そのようにしてこの教室に4時間以上も居つづけて、しっかり自分の勉強もします。後でわかったのですが、面倒見たあとの彼らの取り組む姿勢がとても真剣そのものであったこと。教えていたときの、教えられる子の真剣な表情を見ていますので、自然と彼らも真剣にならざるをえない。大切なことを、小さい子に教わっているわけです。

また、こんな光景も見られました。

数学の計算分野を徹底的に洗いなおそうと言うことで、毎日こつこつと進む子がいたわけですが、ある日、その子に同級生の数学を見てもらうよう頼みました。そしたらですね、教え方が上手なのです。なぜなら、そのあと、教えられた子は、パーフェクトに近い進み方をしたからです。

これもうなずけるのです。なぜなら、わからないことを理解したあとで教えたわけですから、なぜわからなかったか、どこをどう勘違いしていたのか、その子はしっかりと認識した上で、教えたわけです。つまり、目の前の子にも、当然同じ勘違いをしないよう、注意深く指導するわけですから、当然、指導がうまくなるのです。

この逆のことは、一般の家庭でも日常あるのです。

よく、母親が、「私が教えると、どうも感情的になってしまっ。」と、おっしゃるお母さんが多数見かけられるのですが、なぜ感情的になるのかというと、「こんな易しいところが、なぜわからんのか?」という（感情）が最優先してしまい、かーっ!となるわけです。

おかあさんは、目前の子の心中をのぞくことなく、こう言えばわかるだろう。という決め付けに近い感情が優先しているのです。

さきほどの子供達は違います。私のこの教え方で、わかってももらえるかしら?という、なんともきれいな気持なんです。

私はよく教室で言うことがあります。小さいころ勉強でとても苦しんだ人が、「先生」になるべきだと・・・じゃないと、わからなくて苦しんでいる子の気持がのぞけなくて、結局その子にとっては、つまらない学校生活になってしまうかもしれないと・・・

でも、未だに世の中は、勉強がしっかりできる人が、国家試験をクリアして「先生」になっている。その全ての人が、わからなくて苦しんでいる子の心の中を覗くことができれば、それはとても良いことなだけけれど、どうもそうでないケースが結構あるみたいで・・・

さて、今回小さい子の面倒を見てくださった皆さん。「先生」になってください。そして、小さくして、勉強に打ちのめされて苦しんでいる子達を、一人でもいい。助けてあげてください。

4月の予定

9日（月）新学期スタート

14日（土）栗田の新中学一年生に送る、数学公開授業・・・別紙にてお知らせします。

その後、チラシ配りをお手伝いいただいた人には、恒例「もんじゃパーティー」
ただ今、パソコン教室開設に向けて準備中！

4月です。新入生をはばひろく募集いたしております。よろしく願いいたします。

*全珠連東京都支部ホームページが開設しました。「私」が作ってます。チカレルー！